

令和元年度第3回公立大学法人滋賀県立大学役員会議事録

日時・場所：令和元年6月18日（火）15:30～17:05 評議会室

出席者：廣川理事長、青木副理事長、倉茂理事、山根理事、高橋理事
林理事、木村理事、山本監事、元永監事

事務局：久保田事務局次長、山田総務課長、辻財務課長、小椋経営企画課長、
澤村学生・就職支援課長、郡田教務課長、土淵地域連携・研究支援課長
杉田課長補佐、吉田主幹

令和元年度第2回公立大学法人滋賀県立大学役員会議事録（案）について、原案のとおり承認された。

議 題

（審議事項）

1 平成30事業年度における業務の実績に関する報告書（案）について

廣川理事長および各理事から資料に基づいて説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

2 平成30年度決算および事業報告について

辻財務課長から資料に基づいて説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

〔主な意見・質疑等〕

- ・教育研究機関なので、収益を追い求めるということではないと思うが、一方で、県の財政も含めて効率性を求められる部分もあると思う。行政サービス実施コストは小さくすれば効率的に運営ができているということになるが、パフォーマンスは収益ではなくて、定量化できない部分もあるだろうが、中期計画の実績に結び付いていると理解していれば良いと思う。

一般の事業会社であれば、ROE（株主資本利益率）などKPI（重要業績評価指標）が一定あって、それに向かって活動をしていくのだが、大学経営においては、そういったKPIはあるのか。

収入も支出もほとんど決まってしまう中で、大学としてコントロールする余地はあまりないように思うがどうか。

→収入としては、運営費交付金として県からいただく分は決まっている。入学金や授業料は定員および単価が決まっていることから、収入を増やすとなると、寄付や科研費などの競争的資金を増やすしかない。

一方、支出については、教育経費として学生に還元していなければならないが、それを何パーセントにしていくかという問題がある。その他の経費を低く抑えて、学生の活動にいかにかつ当できるかというのが教育機関としてあるべき姿かと思うが、人件費の比率が高く、固定的な経費が多いのでかなり厳しいものがある。

- ・資産として図書が30億円近くある。県民の資産なので、広く利用ができれば良いと思うが、実際に学外の方が利用できるようになっているのか。入口にゲートがあつてなかなか利用しづらいと感じたが、利用のニーズはあるのか。
 - 図書館に関しては、学外の方も図書館カードを作成していただければ利用していただくことが可能であり、実際に利用している方もいる。ただし、図書カードの作成は有料となっている。
- ・外部競争的資金不採択者支援費の記載があり、事業の内容は良いと思うが、名称については、例えば、若手研究者支援費のような積極的な言葉としたほうが良いと思う。

3 高等教育修学支援新制度に係る確認申請を行うことについて

澤村学生・就職支援課長から資料に基づいて説明があり、原案のとおり承認された。

4 役員規程の改正について

山田総務課長から資料に基づいて説明があり、原案のとおり承認され、令和元年6月18日から施行することとされた。

(報告事項)

1 平成30年度卒業・修了者の進路状況等について

澤村学生・就職支援課長から資料に基づき報告があつた。